

特定非営利活動法人

## 神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr.304

April 2016

NPO 法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE

GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

## 2016年度通常総会・会員懇親会のお知らせ

NPO 法人神戸日独協会は、2016年度通常総会を下記の要領にて開催いたします。総会後には会員懇親会を開催し、会員の皆様と楽しい時間を過ごしたいと思います。総会と会員懇親会に、より多くの会員のご出席・ご参加を心よりお待ち申し上げます。

### 2016年度通常総会

日 時： 2016年5月14日(土) 17:00～18:00

会 場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

(神戸市中央区元町通1-4-13 TEL 078-333-6868)

※ 会員の皆様には「総会開催案内」と「総会資料」を4月下旬にお送りいたします。ご出・欠席のお返事は同封のハガキにて5月10日(火)までにお願いいたします。

### 会員懇親会

日 時： 2016年5月14日(土) 18:10～20:00

会 場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

会 費： 4000円

会費は同封の振込用紙で郵便局にてお振込み下さい。領収書は当日会場にてお渡しいたします。

申 込： 5月10日(火)まで事務室へメール・電話・ファックスでお申し込みください。

# ハンブルクから桜の女王が神戸に 桜の女王歓迎パーティー



ハンブルク桜の女王グレーウェアト・ラウラ Gräwert Laura さんが来神されます。ラウラさんは昨年5月にハンブルク独日協会主催のハンブルク桜の女王選考会で第1代桜の女王に選出され、ハンブルク市独日親善大使として訪日します。桜の女王にはハンブルク独日協会の橋丸栄子会長と幹部会員が随行して来られます。神戸日独協会は歓迎パーティーを開催しますので、多くの方のご参加をお待ちしています。

日時：4月19日(火) 19:00~21:00

場所：レストラン「Wool 神戸ハーバー」(Tel. 050-5784-0789)

ハーバーランド カルメニビル 18階 (松方ホールの建物)

神戸港と六甲山が一望できる素敵なレストランです。

会費：5000円

定員：30名

申込：4月15日(金)18時までに神戸日独協会事務局(Tel. 230-8150)、  
それ以降は4月16日(土)16時までに協会の留守電話にご連絡ください。

(急に決まったイベントで、ご迷惑おかけします。)

## シュレスヴィツヒ・ホルシュタイン独日協会長の歓迎会

すでにご案内しましたように、シュレスビツヒ・ホルシュタイン州よりアルビツヒ首相はじめ代表団が5月11日(水)~14日(土)に来県の予定です。一行にはシュレスヴィツヒ・ホルシュタイン独日協会のキーフマン会長が参加されます。

神戸日独協会は、キーフマン会長の歓迎会を下記のように開催します。会長のご滞在中夜にはお時間が取れませんので、昼食を共にとりながら歓談をしたいと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。

日時：2016年5月13日(金)12:00~14:00

場所：西村屋ダイニング(神戸国際会館10階)(Tel. 078-230-3330)

会費：4000円

申込：5月11日(水)18時までに神戸日独協会事務局(Tel. 078-230-8150)

## 「シュタムティッシュ」

4月19日(火)にハンブルクからの「桜の女王」を迎え歓迎会を開催します。今回はこれに因んで、ドイツ北部の国際港湾都市ハンブルクをテーマとします。同地に駐在員などで住んでおられた方や留学された方、同地を旅行で訪れた方、また同地に興味をお持ちの方など、いろいろな方々に参加していただき、ハンブルクの魅力などについてコーヒなどを飲みながら歓談していただきます。ハンブルクに留学や旅行を予定している方も参加していただければと思います。

日 時： 4月23日(土) 15時～17時

場 所： 神戸日独協会会議室

テーマ：「ハンブルク」

参加費： 一般 800円 会員 500円 (ソフトドリンク、お茶菓子付き)

当日受付にお支払いください。

申 込： 4月22日(金)までに事務所までメール・電話・ファックスでお申し込みください。

## ドイツ文化サロン

### 「女性が支える国際交流」

ドイツ文化サロン「女性が支える国際交流」は、昨年3月に開催してから1年が経ちました。この間にドイツを含め海外滞在経験の豊富な方々に、その経験に基づいて「女性として、家庭人として、社会人としての果たしうる国際交流」について有益なお話をしていただきました。毎回多くの方々に参加して頂きました。

2年目に入り、海外で、特にドイツでご自身のキャリアを積み、その後日本でどのようなご活躍をされているかをテーマにしてお話をしていただくことにしました。

今回はドイツでの留学や勤務をめざしていらっしゃる方々に是非ともお出でいただきたく、開催時間を夕方の18時からとしました。授業後、勤務後に多くの若い方々のご来場をお待ちしています。

### 第9回 『ドイツ語と出会って』

新たなテーマでの第1回目は、ドイツ総領事館の飛鳥井たまきさんをお願いいたしました。飛鳥井さんにはこれまでドイツ大使及び総領事の通訳として協会の諸行事にしばしばお出でいただいています。平日の夜ですが、多くの方のご来場をお待ちしています。

・講 師： 飛鳥井 たまきさん(大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館)

奈良教育大学(障害児教育専攻課程)卒業後、ハイデルベルク大学(外国語としてのドイツ語学部および教育学部)入学、同大学外国語としてのドイツ語学部主専攻文学 中間試験修了。京都大学大学院修士課程文学研究科ドイツ語学・ドイツ文学専攻入学、1998年3月同過程修了。同年4月から2003年12月までフリーランスのドイツ語通訳、2004年1月から大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館翻訳官、2016年1月より広報・文化専門官を兼任、現在に至る。

資格等：ドイツ語技能検定試験 1 級、  
第72回・第75回ドイツ外務省逐次通訳研修修了(ベルリン本省)

- ・日 時： 2016年4月28日(木) 18:00～20:00 (開場 17:45)
- ・会 場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)
- ・会 費： 会員および家族 1300円、非会員 1500円 (ケーキと飲物代)  
当日受付にて支払ください。
- ・申 込： 4月25日(月)までに事務室へメール・電話・ファックスでお申し込みください。

## 第8回 『転がる石ころ』

- ・講 師： グリーンバーグ 治子さん(アメリカ合衆国総領事夫人)
- ・日 時： 2016年3月29日(火) 14:00～16:00 (開場 13:45)
- ・会 場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

## ”転がる石”の講演者へのオマージュ

日下部 管子

あちらこちらから桜の便りが届く春の一日、アメリカ総領事夫人・グリーンバーグ治子さんの”転がる石”というタイトルのレクチャーを聞く機会を得ました。

元ジャーナリスト(朝日新聞社)だった夫人だけに、講演のすべては緻密に書き記されたノートに沿って大変中身の濃い内容で、ご主人の仕事柄今まで巡ってきた世界の各国を転々としながらも、「転がる石は苔が付かない」の諺どおり、いつも物事に対しては新鮮な興味と知識欲を持って過した日々を振り返ってくださいました。

今回はドイツ文化サロン主催のレクチャーということで、ドイツの隣国ポーランドで20年という間隔をおき、二度に渡って赴任し過ごした日々を中心にしてのお話でした。それらの日々は私が想像していた以上に様々な困難を乗り越えられてきたようです。例えば夫人が妊娠された時、ポーランドの病院ではなくて、ベルリンにあるアメリカ陸軍病院に二カ月に一回パスポートを持参して列車に乗り病院に行ったことや、ドクターが当番医で毎回違ったこと。いよいよ出産の時にも今まで会ったこともない担当医がまず看護師さんたちに「初めまして」の挨拶をしているのを横目で見ながら無事出産されたことなど、どれほど心細く、また大変なご苦勞であったかと思いますが、そこはさすが元ジャーナリスト、興味を持ってすべてを受け入れ、それをご自分の歴史の一ページにしっかり刻まれたのだと思います。

ベルリンの話から、やはり世界第二次大戦後の話に及び、ドイツが敗戦した後、強制的に引き直された国境線の為、ポーランドからドイツ人が即刻強制移住を強いられ、結果、その家にポーランド人が入居した時には、まるで、さっきまで食事をしていたかのように、台所のテーブルには皿やグラスがそのまま置かれ、寝室もほんのさっきまで使われていたような光景であったと、ポーランドの人達から聞いた話を、まるで目の前にその光景が広がっているように夫人は事細かく話をしてくださいました。

敗戦後、ドイツ政府は今もポーランドにあるアウシュビッツ強制収容所を保存するために、毎年その費用を提供していることなどもさりげなく話されました。

戦争の悲惨さを語った後は、一転して、ご夫妻で数年間過ごされたポーランドのクラコフという、美しい古都の話やそこに建てられた”Manggha”と愛称で呼ばれている”日本美術技術博物館”についての話に及び、そこには、一人の鋭い鑑識眼を持った美術収集家・ヤシュンスキー氏(彼のペンネームがマンガ)によって収集された日本美術の数々や、日本の建築家磯崎新氏、ポーランドの映画監督ワイダ氏、そのほか多くの日本人の貢献によって建てられたという素晴らしい博物館についてのお話し、又、夫人が出版した美術博物館についてのガイドブックの赤い小冊子を私たちにを見せてくださいました。装丁も大変美しく心惹かれるもので、ページをめくると江戸時代の浮世絵などの木版画の収集品の紹介や、ヤシュンスキーその人となり、また建築家や映画監督の無償かつ比類のない情熱によってポーランドの地に生まれたそのミュージアムについての賞賛が夫人の美しい文章を通して語られていました。

言霊(ことだま)といって、昔から言葉には魂が宿っているとの言い伝え通り、彼女は短い時間で私たちを時空を超えて、様々な歴史を経たポーランドの地にいざなってくれました。本当に心奪われるレクチャーを、又、そのような機会を与えてくださったドイツ文化サロンに多謝！

## 第8回 ドイツ文化サロン「女性が支える国際交流」感想文

G1 クラス 井本 徳子

今回初めてドイツ文化サロンに参加させていただきました。テーマは「転がる石ころ」。アメリカ合衆国総領事夫人でいらっしゃるグリーンバーグ 治子さんのお話でした。「転がる石ころ」とはどこにいても毎日新しい気持ちであれば楽しく過ごせるというお気持ちからつけられたそうです。

日本人でありアメリカ合衆国総領事夫人というお立場でのいろいろな体験談や駐在先のポーランドとドイツ、ロシアとドイツの歴史的背景など普段私達が耳にすることのない貴重なお話をしてくださいました。

いつも「if」という思考を持ちそこからの気付きや好奇心を大事にされているそうで、幅広いご活躍はそこからきていらっしゃるのだと感じました。歴史を知らないとドイツを知ることはできないとおっしゃっていましたが、本当にそうだと思います。ドイツ語を学ぶためには言葉だけでなく歴史も一緒に学ぶ必要があるのだと感じました。参加された方々からも沢山の質問があり、皆さんの知識の深さに驚きました。

お話のあとはユーハイムさんの「フロッケンザーネトルテ」をいただきながらのお茶の時間！和やかな雰囲気の中、他の方々とお話ができ楽しい時を過ごさせていただきました。

お茶のあとも皆さんの好奇心は尽きることが無く再度の質問タイム。

そして最後に治子さんから「いつもオープンであること」とメッセージをいただきました。それはいつも自分がオープンであることで困難にぶつかっても物事を多角的に見ることができ、必ずその困難を打破できるというものでした。

今回のお話を聴かせていただいて、ドイツについて何も知らなかった私ですが益々ドイツ語を学ぶ意欲が湧きました。ありがとうございました。

# ドイツ語談話室

## 第148回ドイツ語談話室

日時：2016年3月19日(土) 14時-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：教育

今回の司会は合田ドロテアさんが担当され、教育はまず生誕から家庭で始まり、ドイツでは3歳から幼稚園に通い始めることを話された。次に、6歳からは国民学校へ4年と、本課程(ハウプトシューレ)の5年、合計9年間が義務教育であった。司会者が当時のドイツ国民学校で受け取られた成績証明冊子を見せてもらったが、四年間、半年毎の各学科や品行の成績がこまかく記入され、担任の先生と上司の先生ほか数名の指導者のサインが各期毎にあり、実にドイツらしいシステムであると感心した。

次に、参加者の皆さんの話が続いた。以下その一部を紹介する。

—1940年代の日本の国民学校に通ったが、戦時中で、日本軍が飛ばした風船爆弾の部品となる、紙の生産過程の一部を手伝わされた。あまり思い出したくない記憶である。

—現在ではありえない事だが、以前の学校の先生はとても厳しく、罰に、水の入ったバケツを持って廊下に立たされたものだ。

—現在は核家族化してしまっているが、本来、家庭での良い教育は、三世代家族の中でなされるのが理想である。

—日本の教育の公的負担はとても貧弱である。ヨーロッパでは、就学前(保育園・幼稚園)と高等教育(高校・大学)はほとんど全額公的負担なのに対し、日本は僅か30%程度に過ぎない。

—日本の奨学金は、ほとんどがローンで返済義務があるのに対し、ヨーロッパでは、そのほとんどが文字通り奨学金として支給される。日本は奨学金制度を改善する事が必要。

—最近の日本の子供たちは、塾に行くため、自由に遊ぶ時間がなく可哀想である。

—正規の学校教育制度がありながら、別に塾が必要となっている日本の現状は、何かおかしいのではないか。

—日本の教育では、子供に、自身で考えることを教えないので、自分が人生で何をしたいかが判らない人間を多くつくりだしている。

—子供は親の背中を見て育つ、と言はれるので、親として襟を正さないといけない。

### 今後のドイツ語談話室の予定

第149回 4月16日(土) 14-16時 テーマ：どのように健康を維持するか

第150回 5月21日(土) 14-16時 テーマ：日本とドイツでの住宅事情

# Deutsche Gesprächsrunde

## Protokoll der 148. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 19. März 2016 14 bis 16 Uhr

Thema: Erziehung

Dieses Mal hatte Frau Dorothea Goda die Gesprächsleitung und ging davon aus, dass Erziehung gleich nach der Geburt zu Hause beginnt. In Deutschland gehen die Kinder ab dem 3. Lebensjahr in den Kindergarten. Mit 6 kommt man in die Grundschule, früher Volksschule. Diese dauert 4 Jahre. Mit 5 Jahren Hauptschule danach, hat man die Schulpflicht von insgesamt 9 Jahren erfüllt. Frau Goda zeigte uns ihr altes Schulzeugnisheft der Volksschule. Im Heft stehen halbjährliche detaillierte Zeugnisse, versehen mit den Unterschriften vom Klassenlehrer, dem Schulleiter und anderen Lehrern in leitenden Positionen. Das Zeugnisheft sieht sehr „deutsch“ aus.

Von den Teilnehmerinnen und Teilnehmern wurden folgende Meinungen geäußert:

- Ein Teilnehmer erinnert sich ungern an seine Erfahrungen während seiner Volksschulzeit in den 1940er Jahren. Damals mussten die Schüler in der Papierproduktion arbeiten. Das Papier diente für Luftballonbomben der japanischen Armee.
- Ein anderer Teilnehmer erinnert sich, dass Schullehrer früher sehr streng waren. Schüler wurden damit bestraft, einen Eimer voll mit Wasser zu halten. Solche Strafen sind heute undenkbar.
- Ein Teilnehmer denkt, dass die Dreigenerationenfamilie früherer Zeiten ideal für die Erziehung war. Bei den heutigen Kleinfamilien ist keine solche Erziehung mehr möglich.
- Ein Teilnehmer erwähnte, dass es mit öffentlicher Unterstützung für die Erziehungskosten in Japan sehr schlecht aussieht. Außerhalb des Pflichtschulunterrichts werden in Japan die Erziehungskosten nur zu ca. 30 % gefördert, während in Europa die öffentliche Förderung fast 90 % ausmacht.
- Ein weiterer Teilnehmer wies darauf hin, dass die meisten Stipendien in Japan eigentlich nur Darlehen sind, da es in der Regel eine Rückgabepflicht gibt, was in Europa meist nicht der Fall ist. Das Stipendiensystem in Japan muss verbessert werden.
- Eine Teilnehmerin findet es schade, dass viele japanische Kinder nicht genug Zeit zu spielen haben, weil sie eine *Juku* (eine Form von Abendschule zur besonderen Förderung der Schülerinnen und Schüler) besuchen müssen.
- In Japan gibt es neben den normalen eine sehr große Anzahl solcher *Juku*. Eine

Teilnehmerin denkt, dass diese gegenwärtige Lage in Japan eigentlich unbegreiflich ist.  
-Eine weitere Teilnehmerin meinte, dass es in japanischen Schulen an der Förderung von Denkkraft mangelt. Viele Schüler und Studenten wissen nicht, was sie in ihrem Leben erreichen wollen.

-Man sagt, dass Kinder nach dem Vorbild von Eltern aufwachsen. Ein Teilnehmer bemerkte dazu, dass sich dafür die Eltern zuerst richtig zu benehmen haben.

#### Nächste Treffen:

Samstag 16. April 2016 14bis 16 Uhr, Thema: Wie bleiben wir gesund

Samstag 21. Mai 2016 14 bis 16 Uhr, Thema: Wohnverhältnisse in Japan und in Deutschland

## **ドイツ語談話室 第 150 回記念祝賀会**

早いもので、2012年のドイツ語談話室100回記念からもう4年が経ちました。第1回目から談話室に参加されてきた方、途中で入ったり、辞めたりした方、みなさん大歓迎です。バラの季節に Kobe Club で、ゲームしたり、歌を歌ったりしてみんなでお祝いしましょう。参加される方は、5月20日（金）までに、事務所にご連絡ください。

日 時： 6月4日(土)12:00~14:00 (開場、受付 11:30~)

場 所： 神戸外国倶楽部(Kobe Club)(Tel. 078-241-2588)

参加費： 3500円 (ミニコンサート&ランチつき)

Wie die Zeit so schnell vergeht. Im Jahre 2012 haben wir unsere 100. Gesprächsrunde gefeiert und mittlerweile sind schon wieder 4 Jahre vergangen.

Wir möchten nun auch die 150. deutsche Gesprächsrunde fröhlich zusammen verbringen und würden uns freuen, wenn Sie zahlreich teilnehmen. Lassen Sie uns im Kobe Club bei gemeinsamen Mittagessen, Singen und heiteren Spielen dieses Ereignis feiern und uns an die gemeinsam verbrachte Zeit erinnern.

Alle Interessierten, die bisher jemals an unserer deutschen Gesprächsrunde teilgenommen haben, sind herzlich eingeladen. Wir freuen uns auch über neue Gäste, die ein wenig Deutsch sprechen können.



# 行事参加感想

## ワインの会に参加して

会員 下山 和行

平成28年3月27日(日)昨年度最後のイベント「ワインの会」に参加しました。

私は神戸日独協会に入会して以来約18ヶ月になります。入会して18ヶ月程になりますが、諸々の事情もあって、昨年の「総会」、「クリスマス祝賀会」に続いて今回の「ワインの会」で3回目のイベント参加になります。

私は結構ワインが好きな方で、「貢献」という言葉は私には縁遠いものなのですが、日本のワイン消費量には「貢献」しているのではないかと自負しているところでもあります。

今回、赤2種類(ツヴァイゲルト、シュヴァルツリースリング)、白2種類(リースリング、ミュラー＝トゥルガウ)のドイツワインを堪能致しました。リースリングは私をワインの世界に導いた品種であり、今も白ワインと言えばリースリングであります。



会は16時から18時の2時間の予定でありましたが、1時間半の延長で19時半まで行われました。私だけでなく会に参加された皆さん、十分に楽しまれていたようでした。

ところで、会を始めるときに、「このワインの会に名前を付ける」のようなことを言われていましたが、その名前は決まったのでしょうか？

最後に、このイベントにワイン並びにおつまみを提供していただいた関係者の皆様有り難うございました。

## 会員サークル紹介

### 中世ドイツ語を読む会

現代のドイツ語をよりよく理解するために、昨年5月から毎月第1土曜日14時から協会会議室で「中世ドイツ語を読む会」を開催しています。中世ドイツ語の初心者が対象なので、単なる「中世ドイツ語の文法書」ではなく、ドイツ中世の代表的英雄叙事詩である「ニーベルンゲンの歌」をテキストとして、ドイツ語の文法項目の語学的な基礎説明、語彙の社会的背景と意味の史的変遷など現代のドイツ語を理解する上での語学的な基礎知識を与えてくれる「中世ドイツ語の入門書」を読んでいます。ドイツ語をもっと語学的に理解をしたい方、ドイツの中世およびその文学に興味がある方は、「中世ドイツ語」にチャレンジしてみませんか。

### 「中高ドイツ語研究入門」

会員 植田 憲一

昨年きっかけがあって、神戸日独協会で中高ドイツ語(Mittelhochdeutsch Mhd.)の講座が行われることを知り、5月の初回から毎月1回の受講を始めると共に会員になった。

この講座は会長の柘田先生所蔵の、Fraktur (ドイツ文字)で書かれた”Einführung in das

Studium des Mittelhochdeutschen”(第三版)をテキストとして、Mhd.を学ぶというものである。

この本はベルリン大学教授 Julius Zupitza が執筆して1868年に初版が出版された。内容はまずインド・ヨーロッパ祖語から現在の新高ドイツ語(Nhd.)に至るまでの流れを概観し、Mhd.学習のテキストとして「ニーベルンゲンの歌」写本 A を取り挙げ、4詩行からなる各詩節の解説を始める。

最初のうちは柘田先生に講義をしていただいていたが、そのうち受講生が分担することになった。Fraktur は最初は読みにくかったが、だんだん慣れてきた。初めて聞く文法用語や中型辞書には載っておらず相良「大独和」を参照しなければならない単語も少なくないが、150年前に書かれた文章自体はわれわれが読んでも違和感はない。Mhd.の文法は、説明はそれなりに理解したとしてもなかなか記憶には残らないが、言語展開の大きな流れは少しずつ把握してきているような気がする。読み進めるにつれて力強い英雄叙事詩の雰囲気伝わってくる。

現在全42詩節のうち第4詩節に入ったところ、グンターがブリュンヒルトを手に入れるためにジークフリートに助力を頼むところで、今後物語がどのように展開するか、楽しみである。

## 事務室からのお知らせ

### 総会資料および会報発送ボランティア募集

総会資料および会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。総会資料の発送日は4月27日(水)、会報の次回発送予定日は5月12日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越し下さい。

### これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込×切 など
4月16日(土) 14:00~	第149回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室(19階)	当日参加可
4月19日(火) 19:00~	桜の女王歓迎パーティー	レストラン「Wool 神戸ハーバー」	4月16日(土)まで
4月28日(木) 18:00~	ドイツ文化サロン第9回 女性が支える国際交流	ユーハイム 神戸元町本店	4月25日(月)まで
5月13日(金) 12:00~	シュレスヴィッヒ・ホルシュタ イン独日協会長の歓迎会	西村屋ダイニング	5月11日(水)まで
5月14日(土) 17:00~	2016年度通常総会 会員懇親会	ユーハイム 神戸元町本店	5月10日(火)まで
5月21日(土) 14:00~	第150回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室(19階)	当日参加可